

平成26年度 秋田県生涯学習センター運営委員会 議事録

期 日 平成27年1月22日(木)
時 間 午後1時30分～午後3時
会 場 生涯学習センター視聴覚室
出席者 運営委員7名
課・センター職員13名

1 開会

2 所長挨拶

お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。また、日頃より当センター運営に貴重なご助言ご支援を賜り、お礼を申し上げます。

今年度も学習推進、学習情報、総務の三班体制でここまでほぼ計画通りに進めて参りました。昨年度のご指摘を受け少しずつ改善しながら新カレッジの構想も具体化しています。また、様々な場面で行動人の活躍に触れ、その支援にも一層役割を果たしたい所存です。施設面では予算等可能な範囲で改善に努めているところではありますが、本日は、新カレッジの充実を含め、運営に対する忌憚のないご意見を賜りたいと思います。よろしく申し上げます。

3 出席者紹介及び資料確認

資料1・・・平成26年度の生涯学習センター運営、事業の概要について
資料2・・・今年度事業の進捗状況・美の国アクティブカレッジ等について
資料3・・・生涯学習・社会教育関係者研修、調査研究、生涯学習支援システム、
IT講習、県民総「行動人」推進事業自主企画講座支援について
資料4・・・施設利用状況等について

4 委員長及び副委員長の選出

規程に基づき、引き続き原義彦委員長、森田千枝子副委員長を承認する。(議事進行を務めることも確認)

5 案 件

(1)「秋田県生涯学習センターの事業運営の在り方」について

- ・夏目所長より資料1に基づいて今年度のセンターの取り組みの概要を説明する。
- ・続いて、各班から具体的な説明があり、質疑応答を行った。

A委員 行動人交流集会は今年度初めてか。

高橋班長 初めて開催し、270人の参加希望があった。当日の悪天候により欠席せざるを得ない方がおり、実際は200名余りであった。

A委員 生涯学習支援システムの利用状況はどうなっているのか。うまく活用されていないのではないかな。

高橋班長 市町村職員を対象に生涯学習支援システム研修会を開催したり、リーフレットを配布して利用を促進しているが、マンネリ化している現状もある。行動人ホームページとの一元化も含めて検討しているが、予算の都合で実現できていない。

A委員 行動人に対して、生涯学習支援システムを周知してはどうか。
委員長 美の国アクティブカレッジのうまくいった点と課題は何か。
平成27年度事業の説明で回答してもらおう。

A委員 総務班としては、今後どのようにしていきたいのか。稼働率を高めたいのであれば、講座の講師や行動人・利用団体の方に直接働きかけるのはどうか。

佐々木班長 外部利用者からの使用料収入も予算化されているので、外部の方にもっと使用していただきたいと考えている。

原委員長 稼働率については、午前・午後・夜間など時間帯別の利用状況を把握して目標値を定めてもよいのではないかな。

(2) 平成27年度事業について（新年度カレッジ事業等）

佐藤班長 地域キャンパスと地域マイスター養成講座の廃止にともなう地域活性化支援講座の在り方の検討が必要だと考えている。先ほどの質問にもあった全体の評価について、受講者数を確保していく必要性から新たな連携先を増やす方向性である。長い歴史のあるカレッジなのでリーダーの要望にも沿いたい。

A委員 新年度の行動人GENKI講座とは、行動人が講師となるものかな。

佐藤班長 すべてではないがそういう形態を想定している。

B委員 展示ホールの利用人数はどのようにカウントしているのか。学習相談はどのような相談が多いのか。

高橋班長 窓口の職員が目視でカウントしている。
美の国アクティブカレッジの問い合わせや申し込み、講師の相談、行動人や活動団体に関する問い合わせ・相談等である。

B委員 学習相談の件数・内訳や資料のアンケート結果を数字で出してくれるとありがたい。

C委員 スギの子 e-mail 相談では、どういう内容があったか。

高橋班長 子育てや不登校についての相談があった。e-mail だと、相手が誰か分からないので対応が難しい場合もある。来年度以降の事業の継続については、検討中である。

C 委員 家庭のなかで様々な事件が起きている。事件が起こる前の対策という観点からも、相談できる窓口はあった方がいいように思う。

委員長 家庭教育に関する相談は一カ所では解決できないし、相談を受ける方は、性善説で対応していかないといけない。e-mail だからこそ相談しやすいという事情もあるかもしれないので、可能であれば継続する可能性も模索してもらいたい。

D 委員 パソコン入門の講習については、ターゲットを絞って講座を開いてはどうか。連携講座の連携先として民間企業もお互いのメリットになるのではないか。ケーブルテレビでは、市民による投稿を放送しているが、そのためにビデオ講座を開催し秋田市文化会館とも連携した。

E 委員 講義のレベルが高くなっていると感じた。後ろに座ると居眠りをしている人も見える。一般の方にも分かる講座を設けてほしい。

副委員長 生涯学習は、人々の豊かな暮らしのためにあると思う。そういった意味でも広報誌等で「学習相談やお悩みがあればいつでも受け付けます」というメッセージを発信してもよいのではないか。他の部局と連携し相談に対応する体制を取ってほしい。また、来年度の地域活性化支援講座では、市町村職員と意識を共有化するための対策を取った方がよいのではないか。

委員長 事業の幅は広いが、秋田県の生涯学習推進に向けた一つの方向性を意識して、来年度もより充実した運営をお願いしたい。

6 諸連絡（副所長）

7 閉会

- ・ 所長謝辞 それぞれのお立場からの貴重な御意見ありがとうございました。各運営に順次反映させていきたいと思っております。可能であれば、来年度も引き続き委員を引き受けていただけると幸いです。今後とも当センターをどうぞよろしく申し上げます。